



## 目次

〈総会〉“ゴルフの乱れ”を正し“健全ゴルフ”的振興に努めよう…1
——福田 彰 理事長 今年度活動方針——
ゴルファーのためのマナー基礎講座(3)
ゴルフ愛好家は「精神の貴族」だ ………………5
対論 & 特集・ジュニア問題
ジュニアを取り巻く明るい話題 ………………7
「明るい話題」についての異論 ………………10

新ジュニア育成委員長に聞く —ごく当たり前の“棋”からスタートしよう— …13
ゴルフ場の脇役たち(5)バンカー・レーキ ………………16
新規加盟店俱楽部紹介・事務局だより ………………17
平成11年度 関東ゴルフ連盟 役員・委員一覧表 …18
総会・理事会・分科委員会 ………………20
月例競技成績表・お知らせ ………………28

表紙Photo KGA春季ジュニア・ゴルフスクール 横ヶ丘カントリークラブ(撮影/片山清美/KGA広報委員)

 関東ゴルフ連盟

総会

## 総会

### “ゴルフの乱れ”を正し“健全ゴルフ”的振興に努めよう

——福田 彰理事長 今年度活動方針——

写真・石川博英 (KGA広報委員会)

平成11年2月23日、関東ゴルフ連盟第51回通常総会が開催された。席上、福田理事長より今年度活動方針が示され満場一致で承認されました。

#### 1. ゴルフ界の現状とKGAの責務

ゴルフ界にとって、平成10年は厄年でした。

ゴルフ場企業の倒産、預託金償還問題の深刻化、加えて大雪、長雨、台風など天にも見放された感がありました。

しかし、ゴルフは他にも増して魅力あるスポーツです。

このような時こそ、いま一度、ゴルフの原点に立ち戻り、着実に歩みを進めて行けばゴルフ界は必ずや蘇生するものと信じております。

さて、このような悪条件下でKGAの果たすべき責務は何でありますか。

個々のゴルフ場の経営問題に直接タッチできない連盟としては、一にも二にもゴルフ振興策を図

ることであります。より多くの人々にゴルフの面白さ、素晴らしさ、そして奥行きの深さを体験いたたくことであります。迂遠な方法に映るかも知れませんが、私にはこのことが、関東ゴルフ連盟の最大の責務と考えております。

#### 2. 事業内容

私は昨年度の総会において、具体的な活動方針、事業内容として ①競技の充実 ②JGA HDCPの完全実施 ③ジュニアゴルファーの育成 ④体協問題 ⑤委員会活動 の活性化とゴルファーのマナー向上を提案して、満場一致にてご承認いただきました。

今年度も継続して取り組みたいと考えておりますが、昨今のゴルフ界の状況下から、より合理的かつ経費削減に努めながら実行すべく、関係者に指示したいと思っております。

#### ■ジュニアの正しい育成

とくに今年は、ジュニアゴルファーの育成につ



いて“正しい育成”を心がけ、関係者に具体案の策定を命じております。と申しますのは、昨年度「スコアの改ざん」という、まことに悪質な不祥事が生じました。KGAの主催競技での出来事ではなかったのですが、放置できない重大事であり、ゴルフ界全体の問題として抜本的な対策を講じる必要があります。

もちろん、これはジュニアだけに限ったことではありません。また、全てのジュニアがそうだとは思っておりません。毅然とした態度でアステトを拒否したジュニアはいたいしたものだと思いますが、よく考えてみればそれがゴルファーとして当たり前のことなので、問題は一部の不心得者の仕業とは言え、このような不祥事が発生した背景を消さなければならないことがあります。

私は昨年「ゴルフの乱れ」を正すべく、マナーの向上を訴えましたが、よもやジュニアの世界がこれほど病んでいるとは、思つただおりませんでした。

原因は極端な「スコア至上主義」にあると思います。

ゴルフはもっと楽しいものであって、一球一打、まなじりを決してプレーするのは、プロにまかせておけばよいのです。子供たちには、もっとおおらかに伸び伸びしたプレー、ゴルフの楽しさを体験してほしいのです。

ここに至った責任は、私達KGA、JGAはもちろん



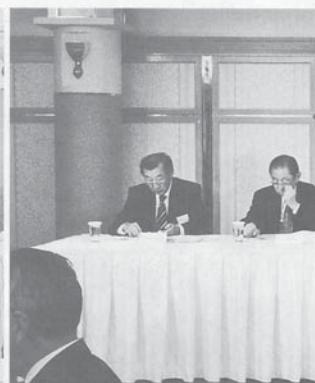
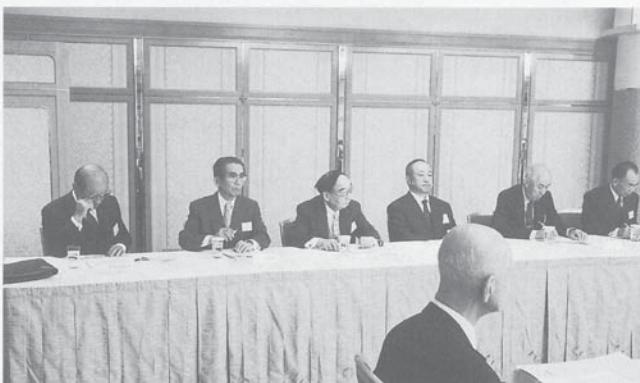
質問する古賀剛大氏(茨城県北浦G.C代表者)

ん両親、教師諸君にもあり、猛省をうながしたと思います。

皆様ご高承のように、ゴルフは他のスポーツに比して特にマナーとエチケットを重視しており、これに反する言動には、“ゴルファー失格”的印が押されます。ジュニアと例外ではありません。

といって、私は、ジュニア諸君に特別に難しい事を要求しているではありません。“嘘をつくな、誤魔化すな、迷惑をかけるな”といった人間としてごく当たり前の“規”を身につけてほしいのです。

次代のゴルフ界を担う、大切なジュニア諸君を私は小さな紳士、淑女として遇したいと考えておりますが、それだけに仲間としての決まり、約束事を破った場合には、厳しい掟があり、癒すことのできない深い傷を負うことになることをきちんと教えてあげたいのです。



所信表明を行う福田理事長と副理事長、常務理事



出席は367俱楽部(含委任状) 热心に審議が行われた。

### ■体協問題

次に体協問題に触れたいと思います。

今年の9月、ゴルフはいよいよ国体の正式種目となります。47都道府県にアマチュアゴルフ団体が組織され選手選考の競技が行われます。これまでにも、皆様の都県、市町村レベルでさまざまな競技が開催されていたことでしょう。KGAは、名前だけの後援者にとどまっておりましたので、その実情についてほとんどつかんでおりませんが、私なりに心配していることが一つございます。

それは、“国体ゴルフ”という別種のゴルフが誕生するのではないかということです。昨年も申し述べましたが、「ゴルフはゴルフ」であって、「JGAゴルフ」「国体ゴルフ」といった差異があることはないと考えています。といって、地区連盟が都県アマチュアゴルフ団体とどう関係すべきか、今もって明確な方針が定められており

ません。これは、決して責任回避するつもりはありませんが、先ずは日本ゴルフ協会において、打ち出すべき問題と考えております。KGAとしては、60余年の経験、知識を提供すべく準備は整っているのですが、基本的には両者間に組織、財政問題が介在しており、一地区連盟では、決せられない難事であります。

またゴルフは、日本体育協会に平成4年に復帰したばかりの“帰り新参者”であります。ゴルフの理念を曲げることなく、堂々とスポーツとしてのゴルフの特殊性を主張すべきであります。KGAは、直接には日体協とのかかわりはございませんが、上部団体である日本ゴルフ協会にこの点も強く要望したいと考えております。

### ■JGAハンディキャップ完全実施

次にJGAハンディキャップ完全実施について触れたいと思います。



の諸氏

総会後は、懇親会 乾杯の音頭をとる  
中井副理事長

ネットワークをはじめとするという目的を持ってスタートしたわけで、今年はその2年目になります。新潟、山梨、東京地区では全加盟倶楽部に設置すべく、関係者に努力いただいておりますが、他県とともにゴルフ大県、なかなか歴史の古い倶楽部ほど消極的であります。

公平、公正なハンディキャップが、いかに、ゴルフに大事であるか、ここで述べることは控えますが、なにとぞこの計画に賛同し、ご協力いただけるよう切望いたします。

#### ■関東オープン

最後に、平成12年度以降の関東オープン開催方式についてご報告いたします。

本年度は、第50回大会という節目に当たり、長



懇親会にはマスコミ関係者も出席、各所で歓談

野カントリー倶楽部にて開催いたしますが、記念大会にすべく、関係者一同、特に開催倶楽部、長野県ゴルフ関係者の皆さんには鋭意準備に努めていただいております。

しかしながら、このまま継続することは年々、難しい状況となっており、これはKGAだけでなく、全地区連盟共通の問題となっております。具体的に申しますと、

①財政面での負担増

②参加者、特にプロの意識の変化  
であります。

したがって、抜本的に見直す必要に迫られ、これまで、①規模縮小して継続 ②東地区（関東、北海道、東北）オープン化 ③10年度をもって終焉

を検討してまいりましたが、JGA、他地区連盟とも協議の結果、今年度をもって、全地区中止の方向で検討しております。端的に申して、歴史的役割は終了し開催意義が失われたと判断せざるを得ない状況下にあると思います。

なお、日本オープンは文字通りの“オープン”にすべく、予選競技の完全化を図っており、具体案を検討中とうかがっております。

私達世代のゴルファーにとって、関東オープンは輝かしいあこがれの競技でありました。マア、プロ問わず、このオープン出場を目指して腕を磨き研鑽に励んだものであります。

中止となればまことに残念であり、淋しいかぎりですが、これも時代の趨勢であります。

以上ご報告申し上げます。



#### ③ ゴルファーのためのマナー基礎講座

##### ゴルフ愛好家は

##### 「精神の貴族」だ

文・鷲巣 力（スポーツニッポン編集委員）  
カット・山縣和彦

##### ◆◆階級社会と平等社会の違い◆◆

ゴルフと他のスポーツとの大きな違いは、審判の有無にある。他のスポーツは審判がいて審判が判定を下す。それに反してゴルフは、自分で判定して自分で申告する。偽りの申告をする可能性はつゆほども想定されていない。本人を信頼し、本人が信頼を裏切らないことは、当然のこととして期待されている。ゴルフが「紳士のスポーツ」といわれる所以である。

ゴルフはイギリスで貴族のスポーツとして発達した。イギリスは今日でも貴族階級と労働階級がはっきり分かれる階級社会であり、階級によって言葉や文化が異なる。広い意味の文化の違いの一つに《ノーブレス・オブリージュ》がある。高い身分には、高い身分にふさわしい「守るべき義務」があるとされる。いわば仲間同士の「捷」とでもいいたらよいだろうか。そして、その義務をまつとうすることが、彼らの「矜持」ともなる。不正行為をしないこと、虚偽を述べないことも「守るべき義務」に含まれ、ゴルフでもこうした態度と行動が求められる。

イギリスのような階級社会や身分社会では、生まれによってあらかじめ身分や職業がほぼ決められている。それゆえ、人々の間の成功や栄達をめぐる競争はそれほど激しくならない。こういう社会で、上流階級がわがままいっぱい、好き勝手に振る舞っていたのでは、世の中に不満がたまり、安定は確保されない。社会の安全弁として《ノーブレス・オブリージュ》という価値観と行動様式が発達したのかもしれない。

一方、平等社会では、成功や

栄達の機会はだれにも均等に与えられている。それ自体は望ましいことだが、ここでは成功や栄達をめぐる競争がきわめて熾烈になる。競争が激しければ、お互いに切磋琢磨して、結果として社会全体の力が増すこともある。

近代日本は世界でもまれにみる平等社会である。江戸時代までは身分社会だったが、近代に入って急速に平等社会化した。その原動力は「西欧に追いつけ追い越せ」の国家的使命感だったろう。そして、それを支えたのが「学校教育」である。学校教育は「国家に必要な人材を草の根わけても搜しだし、教育を授け、これを登用した。実際、近代日本では、競争がよい方向に作用して、短期間に一応の「近代化」に成功したといえる。

しかし、コインに裏と表があるように、ものとの利点と欠点は、背中合わせである。ある人が明朗で行動的だと言えば、能天氣で腰軽いうことでもある。競争社会であった近代日本では、一方で競争がよい方向に作用して「近代化」を成し遂げた。他方で「近代化」は日本の矛盾や歪みを作り出した。

##### ◆◆「私」のためには手段を選ばない◆◆

その典型が「受験戦争」である。将来の成功や栄達を約束するものとして「学識」あるいは「学歴」を求めて、激しい競争が繰り広げられる。昨今では、ついに幼稚園入園競争、いや、胎教競争にまで広がった。受験戦争は、たしかに知識の量を増やし、条件反射能力を養うかもしれないが、必ずしも人格の質を高めず、発明発見能力を殺すことにもなる。



そのうえ近代日本社会には《ノーブレス・オブリージ》という観念がほとんど育っていない。そればかりではない。諸外国のように、日常生活の規範となる宗教もない。伝統的な禊けはほとんど消え去った。個人の行動を律する力は、どこを見回しても見当たらない。しかも「世のため人のため」といった「公」観念は凋落し、もっぱら「世界はあるの、私のために」の隆盛を迎えた。「私」のためには手段を選ばない御時世である。

こうした世の中では受験をはじめ、いかなる競争でも、勝つことが唯一無二の価値とされる。競争に勝った者は、むき出しの勝利者意識しかもたない。

官僚たちの不祥事が続いているが、彼らは平等社会かつ競争社会が生んだ「鬼子」ではあるまい。激しい競争に勝利するには、幼いときから、他人が遊びほうけているときさえ、それなりの努力を払い精進を重ねて来た。ひとたび勝利者となった暁には、相応の「便宜」を受けることは当然の報酬だという意識をもったとしても、なんの不思議もない。

### ◆◆ はびこる数字主義 ◆◆

競争が激しくなるにつれて数字主義がはびこる。そもそも競争というのは、何らかの「ものさし」を設けて行われるものである。スポーツ競技にも勝敗を測るものさしがある。たとえば100メートル走では「時間」がものさしとなる。すなわち、他者よりも短い時間で走った者が勝ち。このとき、時間よりも走る姿の優雅さを競うべきであると主張したら、競技は成り立たなくなる。参加者すべてが、時間というものをさしを使うことに同意しているから、競技が成り立つのである。一方、優雅さとか力強さといった主観的あるいは微妙なものをさしを使う競技では、審判の判定に疑問が出され、物議をかもすことが少なくない。

競争が激しくなればなるほど、参加者たちはますます「公平」なものさしを求めるようになる。



こうして受験では、客観テストの「得点」という数字がものを言い、学校や予備校や塾では「偏差値」という数字が重要になってくる。これなら親からも生徒からも「公平」だと納得を得られやすい。

数字主義はなにも受験競争だけに限らない。人間を評価するのに「年収」というものさしが重い意味をもつ世の中になった。年収の多寡はほとんど人格の高低を意味しない。しかし、年収が多ければエラい人、少なければツマらない人と評価される。驚いたことに、大学に職を得ようとする者にとってさえ、論文の「数」が大事だそうである。論文の内容を判定すれば、公平であるかどうかに疑問が出される。その疑問から逃れるには、論文の数というものをさしを使うにしくはない。かくのごとく「数字」による評価があまねく広まっている。これが現代日本の特徴である。

これは「質」を問う煩わしさを怠り、ひたすら安易に「量」を認めてきた結果である。

しかも、この傾向は今後、なくなるどころかますます強くなるに違いない。今、当連盟でも由々しきことと苦慮している高校生たちの「不祥事」の背景には、こうした問題がある。問題の根は深く、解決は一筋縄ではいかない。ささやかな手立てしか考えられない。しかし、そのささやかな手打ち続けるしかない。

イギリスで「貴族のスポーツ」として発達したゴルフを、日本では「大衆のスポーツ」として普及させた。だれもが参加し楽しめるようになった。だが、これからは「ゴルフ愛好家は『精神の貴族』なのだ」というイメージを確立し、浸透させる必要がある。言い換えれば《ノーブレス・オブリージ》を根づかせる作業を始めるのだ。それは平等と民主と大衆化を最大の価値として来た近代日本の「忘れ物」である。忘れ物に気づいたら引き返すしかない。たとえどんなに非難を受けようとも、どんなに犠牲を払おうとも。それもまさしく《ノーブレス・オブリージ》にほかならない。

### 対論 ジュニア問題

## ジュニアを取り巻く 明るい話題



関東高等学校ゴルフ連盟

副理事長 石田克人(玉川学園高等部教諭)

写真・片山晴美 (KGA広報委員)

先々号 (No.64) の「ジュニアよ、どこへ行く」(吉川英明広報委員) がきっかけとなって、さまざまの意見が寄せられている。今回は、高ゴ連サイドの反論を紹介し、さらにKGAの考え方を掲載します。ご意見、感想をお待ちしております。

KGA広報委員の吉川英明氏による、「ジュニアよ、どこへ行く」のレポートがKGA広報誌に掲載され、私ども、関東高等学校ゴルフ連盟にも様々な反響を戴いている。

私は、吉川氏の記事を読み、一般の方々のジュニアに対する理解・認識の浅さに「危機感すら感じた」ので、氏への反論を兼ねながら、ジュニア育成の最前線に立つ、「高ゴ連」から一文を掲載させていただきたいたい。

### 視点を変えれば評価も変わる

物事を見る際、視点を変えることにより同じ事象もまったく違った様相に見ることができる。

高校選手権のスコア改竄に関する吉川氏のレポートの中に次のような記述があった。「Bのカードはマークーがアテストを拒否して不正が明るみに出た」と。

この事件も視点を変えるとまったく違う評価ができるように思う。スコア改竄をした生徒に焦点を当て、吉川氏のように、「昨今のジュニアは…」と嘆き糾弾する立場と、アテストでサインを拒否した生徒に焦点を当て、「ジュニア育成の成果である」と、評価をする立場である。

私たち、「高ゴ連」の教師一同は、ゴルフというスポーツを通して、生徒の人格形成を目指し、一生楽しめるスポーツとして、その基礎とルール・マナーを競技・研修会を通して学ばせることを目的としている。

その流れの中で、アテストのサインを拒否することによって、不正に立ち向かおうとする生徒が一人でも出てくれたことは、昨年のゴルフ界の「明るい」トップニュースの一つであった、と受けとめている。

昨年12月末に終わった関東高等学校ゴルフ選手権冬季大会決勝においてまた、一人の「失格者」が出た。アテストが終わり、S君は、6位に入賞の成績を修めた。家に帰り、競技を振り返ってみた。マークーも気がつかなかったが、どうも自分は過少申告をしてしまったようだ。翌日、顧問の先生に相談し、その事実を高ゴ連本部にS君は連絡をしてきた。S君は当然失格。全国大会出場の資格

を失ってしまった。

私たちが目指すゴルファーがまた一人育ってくれていたのだ。実に「明るい」ニュースの続く1年間であったと思う。

### ジュニアのゴルフ環境は劣悪だ

吉川氏は関東ジュニアの試合を観戦し、初心者が競技に出ている様を見て、次のような感想を述べられている。「水泳の試合だったら泳げない選手はだしあはないだろう」と。

しかし、また、視点を変えてみると、「このような子でも公式競技に出さなければならないほどジュニアはゴルフをする機会に恵まれていないのだろうか」と考えることもできる。

高校に入学し卒業するまでの3年間に、普通の生徒に何回公式競技の機会が与えられているかご存じだろうか？ KGA主催の関東ジュニアが3年間で3回。高ゴ連主催の競技が3年間で、5回都合8回だけである。

私たちも吉川氏の指摘するような選手を競技に決して出したいわけではない。しかし、出してやろうと思うほど、ジュニアが実際のコースに出られる機会はまだ閉ざされているのだ。

バブルの時代、高ゴ連教師一同は、合宿そして競技開催のコースを求めて、並々ならぬ苦労をした。例えば、合宿をするコースを探すため、50近くゴルフ場に電話を掛けた顧問教師もいれば（挙げ句の果てとうとうその年は合宿ができなかった）、数年来合宿場として使っていたコースや試合会場として使っていたコースが、理由にならない理由



を付けて使用を断ってきたこともある。また、ジュニア育成を唱え協力的と思われ、試合会場としても使用していたコースが、料金的に割高だと言うことで使用を中止すると、「今年度も使うと思っていた。やめるなんて、☆百万円の損害だ」と、言い出す。枚挙にいとまがない。

ところが、バブルがはじけ、ゴルフ場への入場者数が減少し出すと、その使用を断ったコースが、突然手のひらを返すように、「ジュニア育成は大事です。是非お使い下さい」と大変身である。

しかし、この人たちにとって「ジュニア育成」とは、不景気を埋めるための単なる「お客様集め」にすぎないとさえ思われる。それは提示する料金が証明している。

客集めのためのジュニア育成ではなく、真にジュニア育成を考え、コースの提供・解放、特別料金の設定を、どのくらいの加盟コースが努力をしてくれているのだろうか？ KGAやJGA主催のジュニアの競技さえ、コースへ補償費を払っていると漏れ聞く。

そのような状況下、我々は「ブル」がないため、「水」さえあれば溺れることをも、批判をも厭わず、生徒に体験させたいがため、競技にも出してしまうのだ。コースに出ることにより、生徒のゴルフに対する考え方があり、そのことで、人間形成の上に大きく影響を及ぼすことを我々は経験から知っているからだ。

蛇足になるが後一言付け加えたい。競技開催のため我々がコースと交渉する際、多くのゴルフ場で必ず次のような言葉を出することをも知りて欲しい。「どんな生徒でもいい。コースを貸す以上は



200人以上集めてよ。それじゃあないと……」

以上のような現状も知らずに、單に表面に出てきたジュニアの選手や教師を批判するのはまったくお門違いである。

ジュニアゴルファーの歴史は、女性ゴルファーが被ってきたのと同じように、世間一般から偏見と差別に満ち溢れた批判と中傷で築かれてきた歴史である。（その具体的な中身はいくらでも書けるが紙面の都合割愛させていただく。）吉川氏の今回のレポートは側面から、ジュニアに対する偏見を増幅させる効果をもたらした、と私は受けとめている。

しかし、そんな中で、もう一つ我々にとって「明るい」ニュースは、関東高等学校ゴルフ選手権夏・冬季大会とも休日に掛かりながらも2つのメンバーリストのゴルフ場が試合のためにコースを提供してくれたことだ。このように骨身を削っても「ジュニア育成」に協力してくれるゴルフ場が増えることを切に願っている。

### 長い目で見てほしい

ジュニアを取り巻く環境について、後一つ付け加えたいことがあったが、今、この文を書いているところに新しいKGAの広報誌・冬号が届き、私

の述べたかったことを杉山通敬氏が、「オトナの欲目“マネールート”に乗せたい」と言う記事で書いて下さっているので簡略に述べ、杉山氏に論を譲りたい。

氏はゴルフ用品業界のモニター制度、大学へのスポーツ特待生等々のジュニアを取り巻く環境、“マネールート”を見て、「そのことによって『立派なゴルファー』に仕上げができるかどうか」と、「オトナの欲目」がジュニアを歪めていることを指摘しており、まさに杉山氏の批判通りである、と「教育の現場」からも訴えたい。

批判することはたやすいことだ。辛抱強く、育てていくことは難しいことである。特に、教育の現場に立つ「高ゴ連」は、毎年、毎年同じことを繰り返している。毎年1000名を越えるジュニアが巣立っていく、毎年1000名を越えるジュニアに1からゴルファーとして基礎教育を我々は繰り返しているのである。

私ども高ゴ連が目指すものは、プロの育成でもトップアマチュアの育成でもなく、「立派なゴルファー」を、ゴルフを通して「一人の人間」を育てようとしているのである。長く、温かい目で見て欲しい。

ごく一部の残念な行為を見てジュニアを全体を批判するのではなく、あくまでも育てる立場に立ち温かい目で見て欲しい。

最後になったが、我々と同じ立場に立つKGAのジュニア委員会の皆様には、あらゆる面で応援とご支援を戴き、長い目でジュニアの育成に当たられていることに、謝意を表したい。

## 「明るい話題」についての異論

吉川英明 (KGAG報委員)



前号に私が書いた「ジュニアよ、どこへ行く」に対して、関東高等学校ゴルフ連盟の石田克人副理事長から「ジュニアを取り巻く明るい話題」と題する長文の反論を頂いた。

それを読んで、氏のお考えがあまりにも私のそれとかけ離れているのに驚き、再び誌面を借りて反論への反論を試みた。

石田氏はまず、去年のスコア改ざん事件も視点を変えればまったく違う様相に見えるという立場に立つ。

そして、アテストを拒否した少年の行為を「ジュニア育成の成果である」と位置付け、「不正に立ち向かおうとする生徒が一人でも出てくれたことは、昨年のゴルフ界の明るいトップニュースの一つだ」と評価する。

視点を変えるのは大いに結構、私も賛成である。しかし、その場合、もう一方の視点を無視するならば、それは卑劣な“すり替え”に堕してしまう。

アテストを拒否した少年の行為はたしかに評価できる。勇気の要ることだ。しかし、これは断じて「ゴルフ界の明るいトップニュース」にはなり得ない。

**“当たり前”的ことを  
褒めなければならない哀しさ**

何故なら、この事件では、マーカーがアテスト

を拒否しなければならない事態に立ち至ったこと、その事実こそが重要であり異常だからである。ジュニアゴルフ界がまとまならば、一人の少年に公式競技でのアテスト拒否という異常な決断を強いるはずがないのだ。

例えば、いじめの蔓延している学級で、勇を振るって職員室に訴え出した生徒が一人いたとする…石田氏の主張は、いじめの存在そのものには目をつぶって、その生徒の行為だけを褒め称え、近ごろ明るいニュースだと嘆くに似ている。

このように、石田氏の論拠で一番気になるのは、ジュニアゴルフにおける不正の存在を既成事実として受け入れている点である。

そもそもゴルフに限らず、スポーツには不正があってはならないのだ。その大前提を見失えば、ゴルフを通じた人間形成などという理想は瞬く間



に崩れ去る。

「不正に立ち向かおうという生徒が一人でも出てくれたことは……」というような一步退いた現状評価ではなく、不正の存在を根本から断ち切りたいという、指導者としての強い言葉をお聞きしたかった。

そうした中で、石田氏が挙げた関東高校冬季大会での事例は立派である。まだこうした選手も沢山いることは素直に信じたい。

ただ、私自身、これに似た事例は、過去四十余年のゴルフ生活の中に何件か見てきた。そしてそれはその当時、美談としてはたいした話題にもならなかった。彼らは当然のこととしたまでだからである。

ジュニアの世界も、こうした行為を格別の美談として取り上げなくとも済むようにしたいと願うのである。

### 溺るのは親でも先生でもない “選手”なのだ

石田氏は後段で、私がまったくの初心者を競技に出場させた指導者を非難したことに対しても、“視点を変えて”反論している。この場合の石田氏の視点とは「このような子でも競技に出さなければならぬほどジュニアはゴルフをする機会にめぐまれていない」というものである。

そして、日本のゴルフ場がいかに商売一辺倒で、



ジュニア育成に理解がないかを攻撃した上「こうした現状も知らずにジュニアの選手や教師を批判するのはまったくのお門違いである」と逆に私を批判する。

ちょっと待って欲しい。私自身、過去に何度も競技委員としてジュニアの試合運営のお手伝いをしたことがあったし、ジュニア育成委員から、ジュニアが直面する問題についてつぶさにレクチャーを受けたこともあった。また、母校のゴルフ部OB会の委員として、バブル最盛期には、大学のゴルフ部といえども、合宿や試合のコース探しに苦労している有様を目の当たりに見てきた。ジュニアを含む学生ゴルフを取り巻く環境の厳しさは十分承知している。

その上で敢えて言っているのだ。ゴルフの出来ない生徒は、出来るようになるまで、ゴルフの試合に出すべきではない。絶対に……。

石田氏は言う。

“溺ることをも、批判をも厭わず、生徒に経験をさせたいため、競技にも出てしまうのだ。競技に出ることにより生徒のゴルフに対する考え方があり、そのことで、人間形成の上に大きく影響を及ぼすことを我々は経験から知ってるからだ”と……。

これはゴルフの本質を知らない暴論であり、指導者の誤った思い込みの典型的な例である。

私が、泳げない生徒を水泳の試合に出すのかと言ったのは単なる比喩ではないのだ。

溺れることも厭わずというが、溺れるのは選手本人である。溺れて足掻く本人の苦しみをどう考えているのか。批判も厭わずというが、その溺れている少年と一緒に組で試合をさせられる他の選手、毎ホールいらいらと待たされる後続の選手たちへの配慮はないのか……あの日の競技者全員に大きなダメージを与えてしまった責任は重い。



あの日、私は、150と170叩いた生徒の組に、数ホールづつ付いて見て回った。試合の体をなしていなかった。恐らくその生徒たちのスコアは正確ではないと思う。何しろ、ロストボールやハザードのボールの処理の仕方さえ覚束ないのだ。同伴競技者のマークとしての役目も果たせない。ましてや自分の作ったディボットを埋めたりしてコースを汚すことなど念頭にすらありはしない。無理もないのだ。こうした一年生は、まだ試合に出してはいけないのだ。

自分達が打ち終わると振り返りもせずに先へ行ってしまう、いや行かざるを得ない選手たち……泣き出しそうな顔で必死にそれを追いかけるゴルフの出来ない生徒たち……傍で見ていって、私は双方が可哀相でたまらなかった。考えてみて欲しい。どんなスポーツに当てはめてみてもいい。選手たちが日ごろの練磨を競い合う晴れの場に、まったくの初心者が立ち混じったらどうなるか。

### 「正しいジュニアの育成」はゴルフ界全体の問題

こんな経験が生徒の“人間形成の上に大きく影響を及ぼす”としたら、それは決していい方向ではありえない。大きな考え方違いである。

石田氏は、先の私の記事が、ジュニアに対する偏見を増幅させる効果をもたらした、と手厳しい。

だが、あの日、競技の運営を手伝った競技委員達の口から「何故我々が仕事を休んでまで、こんな競技を手伝わなければならないのか」という怒りの声が上がったのをご存知か。こういう声は、

風評として瞬時に広がる。  
また、永年にわたって日本ジュニアの決勝にコースを提供してきた霞ヶ関カンツリー倶楽部のある会議でスコア改ざん事件が報告され、一部のメンバーから「そんな腐ったジュニアなら、もう貸すのを断ろう」という極論さえ出たのである。断っておくが、これは私があの記事を書く以前のことである。

ジュニアゴルフの深刻な現状をありのままに見つめず、一連の不祥事を「ジュニアを取り巻く明るい話題」などと「視点を変えて」眺めていたら、それこそ、ジュニアゴルフへの偏見は深まるだろう。

そして、不正が日常茶飯事となり、他の競技者やコースへの迷惑も意に介さないゴルファーがそのまま大勢大人になってしまった時、それは日本のゴルフの終焉を意味する。

我々一般のゴルファーを含めて、教師、中高生の親達や用具のメーカーなど、ジュニアゴルフに関わるすべての人々が、今改めてその在り方を考え直す時である。

高ゴ連副理事長という権威的な立場におられる石田氏には、アテストを拒否した高校生選手ほどの勇気でも持って頂きたいと、切に願う所以である。



### 新ジュニア育成委員長に聞く

## 健全なジュニア育成への提言 — ごく当たり前の“躰”からスタートしよう —

話・前川昭一（ジュニア育成委員長 常務理事）  
聞き手・塙田 正（KGA広報委員）  
写真・片山晴美（KGA広報委員）

プロ化とかスコア至上主義という現在のゴルフ界全体の風潮の中で、いまジュニアのあるべき姿が問われている。健全なジュニア・ゴルファーを育成するために、何が重要なのか、何をなすべきなのか。そのへんについて、今度新しく関東ゴルフ連盟のジュニア育成委員長に就任された前川昭一氏に尋ねてみた。

冒頭から突っ込んだ話になりますが最近、ジュニア育成の問題が騒がれておりますが、この点についてどんなふうにお考えでしょうか。

前川 たしかに不祥事があったことはたしかですが、しかしながらといってジュニア全般が悪いとは思いません。大部分の人はちゃんとやっていますし、今後の努力しだいでよい方向にあっていくことはできると思います。

具体的にジュニア・ゴルファーがジュニアらしく、将来の日本のゴルフ界の屋骨を担っていくためには、今どんな指導が急務だと思われますか。

前川 例えば、きょう桜ヶ丘CCのジュニア・ゴルフのスクール（KGA主催）のスタートで見ていて感じたことですが、KGAの委員やプロの

みなさんから自分の名前を呼ばれても返事をしない人が多いんです。やはり呼ばれたら「ハイ」としっかり返事ができなければいけません。KGAの委員やプロは、朝早くからボランティアで指導のために来てくれているんですから「お早うございます」といった挨拶くらいできないといけないと痛感しましたね。まず、自分がジュニア・ゴルファーであるという以前にびちびちと精気に富んで礼儀正しいヤング・ゴルファーであるという自觉を植えつける必要があると思います。難しく考えずに、まず「身近な挨拶から」指導していくじゃないかと。



前川さんは地方から上京してくる大学生のために塾（和敬塾・全寮制）も運営しておられるというお話ですが、やはり今の若い年代の人には、われわれと違った風潮というものがありますか。

前川 やっぱり親御さんのほうに問題ありではないでしょうか。「勉強さえできれば」とか「学力さえつけば」といった一面のみを望んでいる人が多いです。以前一度、目にあまることがあったんで母親を呼んだことがあります。「あなたは子供によい成績を挙げることだけを望んでいるようですが、それでいいですか。もっと人間形成のうえ

前川昭一・ジュニア育成委員長

から、心の問題を考えるべきなんじゃないですか」と。その母親にはわかつていただきましたが、やはりジュニア・ゴルファーにも、また違った意味での風潮が見られるのは確かだと思います。

——プロになってお金をもうけたいとか。

前川 そうです。プロになるための練習とか、スコアさえよければいいとか。一面のみを強調する風潮ですね。それよりもゴルフが自分自身の生涯スポーツの対象であるとか、人間形成の一手段であるというような面でとらえる必要があろうかと思うんですよ。そしてその第一歩が、挨拶をする、迷惑をかけない。ウソをつかない——こういった人間としての基本的なところを指導のポイントにしていきたいと思っていますし、もちろん、そのためには教師のみなさんやご家族の人たちの協力を仰がなくてはならないのは当然だと思っております。

### ■日本ゴルフ界の一致団結

——しかし、とはいってもジュニア育成の環境は十分に整っているとはいえないような気がしますが……。

前川 そうですね。たしかに「子供たちなんか入れるな」なんて、わけのわからないゴルフ場オーナーなどもいるようですが、ジュニアの将来ということを考えていただき、気持ちよく、安く受け入れてもらいたいと思います。実際問題、JGAとかKGAというのはアマチュアの競技団体でありますし、われわれだけで声を大にしてお願いしても限界があります。日本経済界のビッグ・バンではありませんが、ゴルフ界もそれぞれ目的を異にしている団体が、一体になって事に当たる時期に来ていると思うんです。

——例えばゴルフ場のオーナーの団体とか？

前川 そうです。日本ゴルフ場事業協会、全日本



ゴルフ練習場連盟、日本パブリックゴルフ場事業協会、日本プロゴルフ協会など、多くのゴルフ団体が一体となって、これからの日本のゴルフを考える——そういうた討議をすべきではないかと思うんです。その一環としてももちろん、ジュニア育成も大きな問題として取り上げてもらう。

——そこで具体的にジュニア育成の気運を高めるというわけですね。

前川 例えば18歳未満のプレイヤーは、ただに近い料金でプレーさせてもらうとか、安く解放してもらうようにするんです。オーナーやいろいろな団体が集まっていますからここで一挙に決まってしまうはずです。

——スコットランドでは、メンバーとジュニアの対抗競技があって、その競技の中で会員がルールやマナーを教えるというところもあると聞いていますが。

前川 うらやましいですね。日本もそうしたジュニアへの理解を得るために、前にも述べたようにゴルフの各団体が一致団結して、よい方向にもっていってもらいたいと思います。

そして更に、このような統一した団体でゴルフ場利用税の撤廃へ向けて努力してもらうようにする。これはもちろん私案ですが、利用税を撤廃した上で、来場者のみなさんに100円ずついただき、そしてその一部をジュニア育成に当てるんです。こうすればJGA、KGAとしても思い切った指導ができるのではないかでしょうか。

そうすればプレーするゴルファーの一人一人が、ジュニアの育成に力を貸していることになります。自ずとジュニアへの関心も深くなり、ジュニア・ゴルファー一人一人の意識にも影響をおぼし、将来の日本のゴルフ界を担う優秀なジュニア・ゴルファーが巣立っていくのではないでしょうか。

——ぜひそれを期待したいと思います。長時間どうもありがとうございました。

悔いのない1ページを！

### ……ジュニアの競技に 参加する皆さんへ

1. ジュニアゴルフはプロとは違う。

ジュニアのゴルフは、プロのゴルフとは違います。プロの目的はあくまでも勝負です。スコアです。もちろんジュニアでも、試合となればスコアは重要です。日ごろの練習の成果をどこまで引き出せるか、全身でぶつかってみるべきです。

しかし、ジュニアのゴルフには、もう一つ、もっと大切なことがあります。それは、競技を通じてゴルフを学ぶということです。技術だけではありません。他の選手に迷惑をかけないこと、コースを大切にいたわること、ルールを厳格に守ること、競技を支えてくれている先輩やコースの関係者への感謝を忘れないことなど、こうしたすべてがゴルフの基本なのです。これらの基本が身について初めて一人前のゴルファーと呼べるのです。

### 2. フェアプレイ

ゴルフは、スポーツの中でも、特にフェアプレーの精神が強く求められます。他のスポーツと違って通常は審判がないからです。ルールをよく勉強し、他人よりも、自分に厳しく適用する気持ちが大切です。自分に厳しく……これがゴルフにおけるフェアプレーの根幹です。

3. 自分のゴルフ史に悔いのない1ページを……。

ゴルフを続けていく限り、競技の記憶というものは、ひとときわ鮮やかな思い出となって心に残るもので。十年、二十年先に振り返れば、今日の競技も自分自身のゴルフの歴史の1ページです。その1ページ、1ページが積み重なって君たち一人一人のゴルフの歴史が出来上がります。すべてのページが悔いのない楽しい思い出として残るよう、正々堂々、のびのびとプレーしましょう。

ジュニア育成委員会

平成10年度 平成11年度 KGA春季ジュニア・ゴルフスクール実績表

	開催日	俱楽部	ホール数	定員	申込人数	欠席(内無断)	参加者	委員	男子プロ	女子プロ			
1	H10 3月23日(月)	桜ヶ丘	18H	150	145	14	131	18	12	3			
	H11 3月23日(火)				160	17	143	13	11	4			
2	H10 3月27日(金)	ノーザン銀ヶ原	9H	150	132	14	118	10	12	3			
					120	19	102	13	12	3			
3	H10 4月1日(水)	セントラル	18H	150	61	0	61	1	12	0			
					61	4	57	1	12	0			
4	H10 3月23日(月)	我孫子	18H	150	150	15	135	14	12	3			
					97	8	89	7	12	3			
5	H10 3月30日(月)	茨城	18H	150	128	17	111	9	12	3			
					77	14	63	9	10	3			
6	H10 3月30日(月)	佐倉(親子)	18H	150	子66 親66	子5 親5	子61 親61	6	12	3			
					子50 親50	子2 親2	子48 親48	6	12	3			
7	H10 3月31日(火)	東京国際	18H	150	115	17	98	10	11	4			
					89	12	77	13	10	3			
8	H10 3月31日(火)	若州	18H	150	178	14	164	12	16	3			
					154	16	138	13	16	4			
合計				900	1041	101	940	80	99	22			
					858	94	765	75	95	23			
				前年度比	-181	-7	-175						

## ゴルフ場の脇役たち(5)

### ゴルフ場の脇役たち(5)

#### 「バンカー・レーキ」

文・井上 喬 (KGA 広報委員)

「バンカーの足跡などは自分でならしましょう。いつも同じ条件でプレーをするため」というポスターをゴルフ場のコース売店でよく見かける。古くはプレイヤー自身の足(スパイク)や使用したクラブでならしたのであろうが、今はバンカー・レーキが必ずバンカー周辺に置いてある。置き方は様々だが、プレイヤー自身が、一番近い所にあるレーキを持って、自分の足跡などをなおす為である。バンカーの大きさにもよるが、一つのバンカーには、平均3~5個のレーキが置いている。コース全体では、相当な数になる。

#### ◆◆ どこに置くのが正しいか ◆◆

さて、そのバンカー・レーキだが、ギザギザ型と平型の2種類がある。素材はいずれもアルミである。サイズは砂をならす部分が35cmで、手で持つ部分が長さ100~125cmである。重さは620g、アイアン2本分である。特徴としては、素材がアルミの為、雨・風に強く、10年でも長持ちする。錆びないし、傷まないし余程のことがない限り補充する必要性はない。しかし、レーキの使い方が荒かったり、カートや車に踏まれたりで曲がってしまった場合には使いづらいので直さなければならない。その場合、先端の部分だけ木製の板(平型)を取り付け再使用するケースが多い。たまたま木製だけのレーキを見かけることもある。だが、傷み方が早く、かけたり、腐ったりすることが多く、長持ちしないため、あまり使用されてない。バンカー・レーキの値段は、1個3~4000円である。

ところでバンカー・レーキの置き方だが時々問題になる。大体はバンカー外のプレーの妨げにならない所へ置くように指導されている。だが、外国では、バンカー内に置くようにしている国があり統一はされていない。浅く平らなバンカーならいいが、あごのある高いバンカーの斜面にレーキを置かれ、そのレーキに寄りかかるようにボールが止まった場合には、その位置からバンカー・ショットをしなければならないから、



ただでさえ難しいバンカー・ショットが更に難しくなり、公平でない。

#### ◆◆ 携帯用があってもよいのでは ◆◆

そういうことは別だが、携帯用バンカー・レーキを作ったらいかがだろうか。少々、小型化して折りたたみ式にする。電動カートや常用カートに常備する。キャディーは、バンカーに打ち込んだプレイヤーに、使用するクラブと共に携帯用レーキを渡すのである。そうすればプレイヤーはきっと自分の足跡だけは必ず直すだろう。そして、これをゴルフ場のエチケット・マナーとして義務づければ、いつも良い状態のバンカーである筈だ。その上、1コース内にはレーキが全てなくなり美観上にも良いし、置き方の問題もなくなる。又、ボールがレーキに、はねて思わぬ方向に飛んでいくアンフェアなこともなくなる。

しかしながら、プレイヤーのならし方も千差万別である。一日の営業が終わって、バンカーを見渡すと、段差がついていたり、凹凸だったり、靴のあとがそのまま残っていたりと一定の状態ではない。その為、ゴルフ場では、バンカーをベストのコンディションにメンテナンスする為、毎朝、それも短時間で、全てのバンカーをバンカーならし専用車で、プレーしやすい良い状態のバンカーに仕上げているのだ。この専用車は、バンカーからバンカーへ能率よく移動することができ、小さなバンカー内でも、その場で自由に方向転回できる便利な車である。

いずれにしても、プレイヤーは、必ず自分の手でバンカーをならし、次にバンカー・ショットをする人の為に、きれいにならしておくことである。



(カット・山縣和彦)

New

## 新規加盟俱楽部紹介



### 亀山湖カントリークラブ

1. 俱楽部名 亀山湖カントリークラブ  
住 所 〒292-0524  
千葉県君津市川俣旧川俣346番地2  
電 話 ☎0439-39-3131  
2. 開場年月 平成8年11月9日  
3. 理 事 長 免出都司夫 (S7.10.11生)  
俱楽部代表者 免出都司夫・金子英雄  
4. 俱楽部会員長 (平成12年中に分科委員会を組織し決定する予定)  
5. 支 配 人 海保 浩 (S13.12.8生)  
6. 俱楽部概要

当クラブは、千葉県君津市の中央部に位置し房総丘陵の山陰に囲まれた静かな湖「亀山湖」のそばに展

開する眺望の素晴らしい18ホールのコースです。

周辺は、鉱泉も多く、温泉、ボート遊び、釣、山菜摘みと四季を通じて、自然がいっぱいの観光地です。

アクセスは、京葉道路、館山自動車道の姉ヶ崎・袖ヶ浦ICを経てコースまで30km約40分。東京湾アクアライン利用の場合は、木更津北ICで降り30km、川崎・浮島JCTより約60分のところです。

コースは、西中伸一氏第1作目の設計コースで、高低差を出した、フラットなデザインで18ホール中15ホールはピンを望めるが、微妙なアングュレーションが随所にあり、グリーン回りも、バンカーがしっかりとガード、奥の深さ、戦略性に富んだ高度なテクニックが要求され、ビギナーにも十分楽しめるコースです。

名物ホールは16番ホール(PAR4)で、路権はないが攻めるには難しいミドルホールでティーグラウンドからは、四季を通じて美しい房総の山並みが望め、グリーンが浮かぶように見えるコースです。

富士山の遠望と夕陽が山陰に沈む時間帯の山と谷の重なりの借景は、絶景です。クラブハウスは、洋風2階建、1階メインホール、2階レトリーブルームで房総の旬の味覚をゆっくりとお楽しみ頂けます。

### 事務局だより

#### ● 緒方貞子 国連難民高等弁務官来盟



1月8日午後、緒方さんがKGAを訪問しました。

朝、NHKの「おはよう日本」でインタビューをうけた後(ごらんになった方も大勢いらっしゃると思います)、各所を訪問、午後いちばんに足を運ばれました。

肩書から、“女傑”を想像しがちですが、小柄で優しいお人柄、短い時間でしたがしばし福田理事長、中井、尾閑副理事長、局員と懇談されました。

印象に残った言葉

「バブルがはじけた、不良債権、経済不況と言われてますが、日本はまだ結構な国です」。

KGAは今年もチャリティ寄金を行います。また将来はJGAとしても行うべく検討をはじめております。皆さまのご協力をお願いします。

#### ● 「埼玉県ゴルフ連盟」が設立されました。

かねてより埼玉県では、KGA加盟俱楽部(42)が中心となり、ゴルフ関連団体(加盟、非加盟俱楽部、支配人会、県ゴルフ協会等)によりかけ大同団結して、山積する諸問題を解決する組織づくりに取り組んでおりました。

2月25日(東京八重洲国際観光ホテル)に59名が出席し、設立準備委員会、連盟設立総会を開催しました。役員として、会長 尾閑秀夫(武藏 KGA副理事

長)、副会長 高橋正孝(日高 KGA理事)、理事 吉田友明(嵐山 KGA常務理事)、大原慎二(霞ヶ関 KGA理事)、渡辺長四郎(飯能 KGA理事)、西村仁一(県ゴルフ協会)、山口現朗(県ゴルフ協会)、八木一郎(武藏 支配人会会長)、大西勇喜雄(越生 支配人会)、岐部典生(埼玉 支配人会)、渡部裕司(岡部 支配人)、谷尻自由(熊谷 支配人会)、以上の諸氏が選任されました。

## 平成11年度 関東ゴルフ連盟 役員・委員一覧表

平成11年4月1日現在／※50音順

## 役員(58名)

理事長	福田 彰 (園田ハイド)
副理事長	中井 文治 (東京)
常務理事	尾閥 秀夫 (武藏)
	古賀 始 (茨城)
	相山 武夫 (横浜)
	赤羽 功 (菅原高麗)
	海老原 亜久寿 (水戸グリーン)
	小宮山義孝 (武藏野)
	斎藤文志郎 (フレスト)
	田中 経策 (グリーンハイド)
	前川 昭一 (園田ハイド)
	渡邊満之助 (エンゼル)
	新井 安寿 (武藏)
	稲川 康政 (春日局)
	岩宮 浩 (湯河原)
	大坪 崇 (千葉)
	鬼沢 忠治 (白崎)
	川上睦水 (塙 碓)
	小坂 健介 (長野)
	篠崎 勝男 (佐野)
	菅 浦一 (姫ヶ崎)
	高橋 正孝 (日高)
	塚原 裕 (サオシエン)
	富田 浩安 (我孫子)
	萩原 剛 (草津)
	広中 三男 (東宇都宮)
	福田 国三 (浜崎ハイド)
	松本 富夫 (相模)
	山田 六一 (蕨 諏訪)
	吉岡文平 (戸塚)
	渡邊健三 (長岡)
	玉井 英二 (霞ヶ谷)
	鈴木 太郎 (湯河原)

## 理事

伊藤文吉 (並神五頭)

磐田恭三 (東名富士)

太田哲男 (アリスラント)

大原 慢 (霞ヶ谷)

金井彌壽二 (紫雲)

古賀邑美 (天城にかつ)

佐藤栄一 (鎌之台)

神場多巳一 (那須川)

鈴木光夫 (金砂郷)

高頭正毅 (新潟県)

田村圭司 (小田原・松田)

塚本清士郎 (源氏山)

南学 正昭 (ミオス菊川)

人見隆清 (清瀬グリーン)

福嶋寿克 (塙原)

前田福三郎 (ザ・鹿野)

森川幸美 (GMG八王子)

山崎一 (穴戸)

吉澤兵左 (唐沢)

渡辺長四郎 (飯能)

森村太華生 (程ヶ谷)

## 顧問

## 都県アマチュアゴルフ団体委員会 (競技委員長付)

大原慎二 (霞ヶ谷)

高頭正毅 (新潟県)

田中千史 (山梨県)

三木征一郎 (埼玉県)

勝亦弘次 (静岡県)

河西幹一 (セントラル)

## 競技・規則研修委員会(15名)

委員長

委員

田村圭司 (小田原・松田)

福川廣政 (春日局)

織戸總三郎 (愛媛)

桜井真一 (高坂)

鈴木昭満 (大利根)

野口正三 (桜ヶ丘)

水本破魔登 (越生)

山崎滋男 (廣之台)

大鷲俊朗 (紫坂)

川島英雄 (高坂)

嶋田憲人 (青梅)

田中克幸 (東山)

平山誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

勝亦弘次 (静岡県)

平山誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

野口 正三 (桜ヶ丘)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

安藤 功 (東名)

飯盛節一 (宇都宮)

稲川廣政 (春日局)

牛込右一 (飯能)

大久保幸次 (日高)

萩島富雄 (武藏野)

織戸總三郎 (愛媛)

龟ヶ谷修 (東名木)

熊澤良一 (箱根)

小池 尚 (サザンクロス)

## 役員(58名)

小嶋 正明 (園田ハイド)	小山 敏男 (青梅)
島村龍男 (清春)	代田敏男 (甲斐駒)
鈴木昭満 (大利根)	瀬尾量也 (麻生)
関戸新一郎 (甲府国際)	関谷龍太郎 (東宇都宮)
高頭正毅 (長岡)	高橋一雄 (日光)
竹下修一 (相模)	田島 茂 (相武)
田中克幸 (駿山)	田辺嘉一 (飯能)
戸光太郎 (船橋)	中沢伊久男 (諏訪湖)
中島敬夫 (狭山)	野本俊夫 (袖ヶ浦)
馬場 明 (野)	平田成二 (ダイヤモンド)
平野 正 (かどりアン)	発知洋一 (西ガムラク)
三石 明 (藤ヶ谷)	松田悦夫 (イエローハット)
矢野隆男 (富士小山)	宮本忠志 (武藏)
山崎 茂 (唐沢)	山崎博靖 (富士)
山田 武 (白帆)	山田保太郎 (平川)
山部 豊 (サ・鹿野山)	吉野統治 (芦塚)
渡辺 章 (袖ヶ浦)	

## 都県アマチュアゴルフ団体委員会 (競技委員長付)

高頭正毅 (新潟県)

田中千史 (山梨県)

三木征一郎 (埼玉県)

勝亦弘次 (静岡県)

河西幹一 (セントラル)

勝亦弘次 (静岡県)

河西幹一 (セントラル)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

野口 正三 (桜ヶ丘)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

平山 誠一 (江戸崎)

山田八郎 (東名)

前川昭一 (園田ハイド)

渡邊満之助 (エンゼル)

新井 安寿 (武藏)

田村圭司 (小田原・松田)

# 総会・理事会・分科委員会

## 平成11年度 第51回通常総会議事録

日 時 平成11年2月23日（火）  
午前10時  
場 所 ホテルニューオータニ  
麗の間

佐藤事務総長より加盟483俱楽部（除く準会員8）中、委任状を含め367俱楽部の出席となり、適法に成立の報告の後、福田理事長定刻議長席につき、開会を宣した。上程議案審議に先立ち議事録署名者には小宮山義孝、斎藤文志郎両氏が指名された。

### —決議事項—

#### 第1号議案

「平成10年度事業報告、ならびに一般会計・特別会計決算の承認を求める件」  
福田理事長より10年度事業報告、ならびに11年度活動方針が示され、満場一致にて承認された。次に議長の指示により、佐藤事務総長より、一般・特別両会計の決算報告と玉井監事の監査報告がなされ、原案どうり承認された。

#### 第2号議案

「平成11年度事業計画、ならびに一般会計・特別会計予算案の承認を求める件」  
尾閑副理事長、予算編成の基本方針、ならびに各会計の具体案、及び関東オーブンに係わる経緯の説明がなされ、原案どうり承認された。

#### 第3号議案

「役員全員任期満了につき改選の件」  
議長より平成10年9月17日開催の常務理事会において選盟規約細則第1条に基づいて選任された、11名の各都県理事候補推薦委員より推挙のあった、次記51名の候補者、ならびに規約細則第2条により常務理事会、理事会の承認を得た学識理事候補4名、

監事候補2名の氏名が発表され、全員異議なく承認された。

#### 新潟県よりの理事

伊藤文吉・金井彌壽郎・斎藤文志郎・渡邊健三

#### 長野県よりの理事

赤羽 功・川上睦水・小坂健介・山田六一

#### 山梨県よりの理事

稲川廣政・田中經策

#### 群馬県よりの理事

太田哲男・小山禎一・萩原 剛・福田 彰

#### 栃木県よりの理事

楠本陽一郎・篠崎勝宏・神場多巳一・滝沢 武・広中三男・福嶋寿克・吉澤兵左

#### 茨城県よりの理事

海老原亀久寿・鬼沢忠治・古賀始・鈴木光夫・塚原 裕・人見隆清・山崎 一

#### 埼玉県よりの理事

大原慎二・尾閑秀夫・高橋正孝・吉田友明・渡辺長四郎

#### 千葉県よりの理事

大坪成彬・佐藤栄一・菅 浦一・塚本清士郎・富田浩安・前田福三郎・渡邊満之助

#### 東京都よりの理事

小宮山義孝・森川幸美・神奈川県よりの理事

相山武夫・岩宮 浩・松本富夫・吉岡文平

#### 静岡県よりの理事

磐田恭三・古賀邑美・南学正昭・福田国三・前川昭一

#### 学識理事

新井安寿・田村圭司・中井文治・藤井英男

#### 監事

玉井英二・森村太華生

ここで議長は、総会を中断し、新任の理事による理事長互選のための会議を開くことを指示、別室において協議

の結果、福田彰氏が選任され、ただちに総会に報告された後、福田新理事長となり議事を再開した。

#### 第4号議案

「(財)日本ゴルフ協会理事、評議員、監事候補推薦に関する件」  
第3号議案と同様、規約細則第2条第2項に基づき、福田理事長候補者名を発表されこれを承認し、(財)日本ゴルフ協会に届けたこととした。

#### 理事候補

中井文治・古賀 始・尾閑秀夫・小宮山義孝・前川昭一・斎藤文志郎  
評議員候補  
紅露昭通・渡邊満之助・吉田友明  
監事候補  
玉井英二

#### 報告事項

「(財)日本ゴルフ協会平成10年度事業報告、および決算報告、ならびに平成11年度事業計画、および予算に関する件」  
佐藤事務総長次記報告を行い承認された。

11年度事業計画案、および予算案は、すでに加盟俱楽部に送付済である。  
10年度事業報告、ならびに決算については、JGA理事会終了後に送付の予定である。

以上をもって、総会の議事を終了、福田理事長より退任された内田盛雄、桑原正明、加藤邦太郎、対馬好次郎、石川 周、飯豊周二、小林吉彦、佐渡 弘、河西幹一、紅露昭通、横山嘉一、緒方太郎の諸氏に謝辞を述べられ11時40分閉会を宣した。

平成11年2月23日

議事録確認署名者  
議 長 福田 彰 (印)  
玉井英二 (印)  
斎藤文志郎 (印)

# 総会・理事会・分科委員会

## 平成11年度 第1回理事会議事録

日 時 平成11年2月23日（火）  
午後12時40分

場 所 ホテルニューオータニ  
翔の間

出席者 福田理事長

金井彌壽郎・斎藤文志郎・渡邊健三・赤羽 功・川上睦水・小坂健介・山田六一・稲川廣政・田中經策・太田哲男・小山禎一・萩原 剛・楠本陽一郎・滝沢 武・広中三男・福嶋寿克・吉澤兵左・海老原亀久寿・古賀 始・鈴木光夫・塚原 裕・人見隆清・山崎 一・大原慎二・尾閑秀夫・高橋正孝・吉田友明・渡辺長四郎・大坪成彬・佐藤栄一・菅 浦一・富田浩安・渡邊満之助・小宮山義孝・森川幸美・相山武夫・岩宮 浩・松本富夫・吉岡文平・磐田恭三・古賀邑美・南学正昭・前川昭一各理事  
新井安寿・田村圭司・中井文治各学識理事

#### —討議及び決議事項—

福田理事長議長を務め、定刻開会を宣言し、順次議題審議を行った。

#### 1. 平成11年～12年度、副理事長、常務理事選任の件

選任方法は理事長一任となり、次記副理事長3名、常務理事13名を指名委嘱し、全員異議なく承認された。

副理事長 中井文治

古賀 始  
尾閑秀夫

常務理事 相山武夫・赤羽 功・海老原亀久寿・楠本陽一郎・小宮山義孝・小山禎一・斎藤文志郎・滝沢 武・田中經策、

藤井英男・前川昭一、吉田友明・渡邊満之助

#### 2. 平成11年度、分科委員長選任の件

選任方法については、議長一任となり、次記の諸氏を指名これを承認した。  
尚、従来の分科委員会のうち、総務委員会、財務委員会を統合の上、総務・財務委員会とした。競技委員会には小委員会として、競技・規則研修委員会、コース選定小委員会を設置することとした。

総務・財務委員長 中井 文治  
競 技 委 員 長 新井 安寿  
● 競技・規則研修委員会 田村 圭司  
● コース選定小委員会 新井 安寿  
ハンディキャップ委員長 渡邊満之助  
コース・レーイアウト委員長 大原 慎二  
月 例 委 員 長 斎藤文志郎  
ジュニア育成委員長 前川 昭一  
広 報 委 員 長 高橋 正孝  
税 对 策 委 員 長 小宮山義孝  
グリーン委員長 古賀 始  
体 協 部 会 委 員 長 尾閑 秀夫

#### 3. 平成11年度、分科委員選任の件

選任方法を踏ったところ、本日開催の委員長会議に一任するところとなり全員これを承認した。

#### 4. (財)日本ゴルフ協会、平成11年度分科委員候補選任の件

選任方法を踏ったところ理事長、副理事長一任となり、(財)日本ゴルフ協会に候補者名簿を提出することとした。

#### 5. 後援競技の件

2月23日現在申請のあった次記競技の後援を承認した。

#### ●「平成11年度第19回東日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技大会」

主 催：日本パブリックゴルフ場事業協会  
予選日：平成11年4月21日～23日  
会 場：那須野ヶ原カントリークラブ

他18会場

決勝日：平成11年5月19日～20日  
会 場：新玉村ゴルフ場

#### ●「平成11年度第5回東日本シニア男女パブリックアマチュアゴルフ選手権競技大会」

主 催：日本パブリックゴルフ場事業協会  
予選日：平成11年8月20日～27日  
会 場：那須野ヶ原カントリークラブ  
他18会場  
決勝日：平成11年9月28日

#### ●「'99神奈川県アマチュアゴルフ選手権大会」

主 催：神奈川県ゴルフ協会  
予選日：平成11年3月29日他  
会 場：中津川カントリークラブ  
他7会場  
準決勝：平成11年5月17日他  
会 場：大厚木カントリー俱楽部  
他2会場  
決勝日：平成11年6月14日  
会 場：程ヶ谷カントリー俱楽部

#### ●「第18回茨城県社会人アマチュアゴルフ選手権大会」

主 催：茨城新聞社  
予選日：平成11年4月16日他  
会 場：サニーフィールドゴルフ俱楽部  
他3会場  
決勝日：平成11年5月12日～13日  
会 場：水戸グリーンカントリークラブ  
山方コース

#### ●「'99茨城オープンゴルフトーナメント」

主 催：茨城新聞社  
開催日：平成11年7月13日～14日  
会 場：茨城ロイヤルカントリー俱楽部

#### ●「平成11年度第19回東日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技大会」

主 催：日本パブリックゴルフ場事業協会  
予選日：平成11年7月1日他  
会 場：新千葉カントリー俱楽部

# 総会・理事会・分科委員会

あさぎりコース 他2会場  
決勝日：平成11年7月26日～27日  
会 場：袖ヶ浦カンツリークラブ  
新袖コース

6. (財)日本ゴルフ協会個人会員入会審査の件  
2月23日現在申請のあった、山菅貴弘氏他5名の入会審査を行い、これを承認、(財)日本ゴルフ協会に届けを提出することとした。

## 7. その他

- ①G-sysの件  
渡邊常務理事より現況説明がなされ、G-sys導入につき全理事の一層の協力要請がなされた。
- ②アンダーハンディキャップ選手権の件
- ③俱楽部対抗競技の件  
新井競技委員長より、アンダーハンディキャップ選手権については、参加人数が地域にばらつきがあるので、理事各位へ支援要請がなされた。俱楽部対抗の今年度参加俱楽部数は、307（内初参加14）が予定されており史上最多数となることが報告された。

④佐藤事務長より、昨年11月退会した上毛森林カントリー倅樂部から平成11年2月2日再加盟申請があり、理事長、副理事長協議の結果、事情を鑑み承認することとなった旨の報告がなされた。

以上をもって、議事審議を終了、福田議長午後1時15分閉会を宣した。

平成11年2月23日

議事録確認署名者

署名者 福田 彰 (印)

岩宮 浩 (印)

太田 哲男 (印)

新井 勝也 (印)

## 平成11年度 第1回競技委員会議事録

日 時 平成11年3月9日 (火)

午後1時

場 所 ダイヤモンドホテル 会議室

出席者 福田理事長

新井委員長

田村、野口、平山、山田 (八)

各副委員長

安藤 (功)、安藤 (實)、飯盛、

市川、鶴川、魚本、牛込、梅

澤、大久保、小澤、織戸、亀

井、亀ヶ谷、国吉、熊澤、小

池、小嶋、小山、島村、代田、

鈴木、瀬尾、関戸、関谷、高

頭、高橋、竹下、田島、田中、

戸田、中島、馬場、平田、平

野、発知、松井、松田、三石、

宮本、矢野、山崎 (滋)、山

崎 (茂)、山崎 (博)、山田 (武)、

山田 (保)、山部、吉野、渡辺各委員

### —討議及び決議事項—

#### 1. 新任委員紹介

事務長より班別に全委員、ならびに新任委員の紹介がなされた。

#### 2. 今年度活動方針について

新井委員長より理事長の活動方針に基づき、当委員会として

イ. 主催競技の充実と権威向上  
ロ. 委員会活動の活性化

ハ. 専門委員としての研鑽

を本年度、重点活動目標とすることが示された。また、小委員会として、競技委員会内に、①競技・規則研修委員会②コース選定小委員会を新設した旨の報告があり、その活動目的、内容について説明がなされ全員これを確認した。

#### 6. 2000年以降のオープン競技について

新井委員長より、関東オープン、他地区連盟オープンとともに今年度をもつて終焉する方向で検討、協議が進んでいたとの報告があった。

また、日本オープンの完全予選実施の説明がなされた。

#### 3. 副委員長、バイスキャップ、班編成について

3月5日の正副委員長会議の議決に従い、委員長より次記の諸氏が、今年度副委員長及びバイスキャップとして、指名委嘱され、全員これを承認した。

また、班編成についても昨年同様3班構成とし、各委員の所属班が指示され、これを承認した。

第一班 平山誠一副委員長、山崎滋

男バイスキャップ、

第二班 野口正三副委員長、田中克

幸バイスキャップ、

第三班 山田八郎副委員長、織戸總

三郎バイスキャップ、

#### 4. 主催競技実施規定について

事務長より机上配布資料をもとに一部変更箇所等の詳細な説明がなされ、上期主催競技（関東女子ゴルフ選手権競技、関東アマチュアゴルフ選手権競技、関東グランドシニア競技、関東俱楽部対抗競技）について、原案どうり承認した。

また、参加資格（会員資格）について、今まで加盟俱楽部各種会員としていたが、今年度より正会員、平日会員、家族会員等を明記することとなつた旨の報告があった。

#### 5. ローカルルール原案、競技管理基準について

田村副委員長より机上配布資料をもとに詳細な説明がなされた。担当会場において、統一した特別ルール制定を図ることを確認した。

#### 6. 2000年以降のオープン競技について

新井委員長より、関東オープン、他地区連盟オープンとともに今年度をもつて終焉する方向で検討、協議が進んでいるとの報告があった。

また、日本オープンの完全予選実施

# 総会・理事会・分科委員会

も併せてJGAにおいて検討中であり、実施策についての報告もなされた。

#### 7. 各競技担当班等について

各班に別れ競技打ち合わせ日等を決定した。

## 平成11年度 第1回ハンディキャップ委員会議事録

日 時 平成11年3月23 (火)

正午

場 所 ダイヤモンドホテル会議室

出席者 福田理事長

渡邊委員長

鶴川、原田、宮元各副委員長

射残、今井、臼井、大竹、川

崎、古賀、小林、斎藤、佐藤、

杉山、田原、佃、中野、萩原、

濱崎、早川、原澤、平井、平

川、平山、蛭田、福田、藤井、

伏見、松尾、村松、八木、山

崎、山田、横田各委員

大原顧問

陪 席 MKCスタッド秋保、下川両氏

### —討議及び決議事項—

#### 3. 新潟県の「G-sys」普及について

斎藤副委員長欠席のため、川崎委員より、新潟県全加盟倅樂部「G-sys」採用に至った経緯、ならびに導入指導方法につき、詳細な説明がなされ、福田理事長より、謝辞とともに、各委員のより一層の協力方の要請がなされた。

すべての議事終了後、計算センター担当者による「G-sys」のデモンストレーションがなされた。

## 平成11年度 第1回コース・レート委員会議事録

日 時 平成11年3月2日 (火)

正午

場 所 KGA会議室

出席者 福田理事長

大原委員長

岡田・前川両副委員長

生田、大久保、岡田 (史)、

佐久間、白井、日暮、松岡、

吉田、和田各委員

渡邊顧問

### —討議及び決議事項—

#### 2. 副委員長、委員選任および担当班について

委員長より成宮副委員長が退任さ

れた。

#### 1. 今年度活動方針について

大原委員長より、査定実施において、委員諸氏の倍旧の協力方の要請がなされた。

また、JGAハンディキャップ委員会において査定計算方法、ならびに難易度査定方法の改訂がなされ、今年度査定より実施する旨報告がなされ、全委員これを承認した。

#### 2. 副委員長、委員選任について

2月23日に開催された委員長会議の議決に従い、委員長より副委員長、委員は、全員再任とした旨の報告がなされ、全員これを承認した。

#### 3. JGAコース・レート新査定方法について

渡邊顧問より、新査定方式について、詳細な説明がなされ、これを確認した。

また、新査定方法について、JGA合同研修会に先立ち、東日本の基準コースである、霞ヶ関カントリー倅樂部東コースにて研修会を行うこととした。また、從来の3箇所のティ・グランド以外の査定については、倅樂部の希望のすべてに応じるとの説明があったが、種々問題があり、次回のJGAハンディキャップ委員会に再度検討方を要請することとした。

#### 4. 査定スケジュールについて

飯能ゴルフクラブ以下4倅樂部について、査定日を以下のように決定した。

- 飯能ゴルフクラブ  
3月9日 (火)
- アカデミアヒルズカントリークラブ  
4月19日 (月)
- 昭和の森ゴルフコース  
6月1日 (火)
- 県営妻沼ゴルフ場  
6月29日 (火)

# 総会・理事会・分科委員会

## 平成10年度 第8回月例競技委員会議事録

日 時 平成10年12月16日（水）  
16時  
場 所 KGA会議室  
出席者 斎藤委員長  
山崎、川島各副委員長  
平山、小池、松井、岡野、桜井各委員  
学生連盟委員  
  
—討議及び決議事項—

1. 12月度競技報告及び総括  
山崎副委員長より下記の報告及び総括がなされた。  
「遅刻者はなく、競技は順調に進行したが、欠席者数が15名と大変多かった。男子上位は例年どおりの接戦で、女子は久しぶりにアンダーパーでの優勝となり、全体的に好成績であった。ミーティングでは、ソフトスパイク使用率について調査を行なったところ、男女共に約30~35%の使用率であった。」

エントリー数他は以下のとおり  
開 催 日 平成10年12月8日(火)  
コ ー ス 茨城ゴルフ倶楽部  
東コース  
エントリー 172名  
(男子108名、女子64名)  
欠 席 数 事前連絡 13名  
(男子7名、女子6名)  
当 日 連 絡 2名 (男子2名)  
無 断 欠 席 0名  
出 場 者 数 157名  
(男子99名、女子58名)  
科 賽 者 0名  
ミーティング欠席 0名  
失 格 者 1名(女子=自署もれ)  
棄 権 者 0名  
次回プレーオフ なし

2. 12月月例出場資格者報告の件  
男子553名 (+4名) 女子213名 (+1)  
1月月例出場資格者確認の件

Hdcp処理未着のため、次回委員会にて報告

3. 1月のテーマ  
●グリーン上のプレーは特に迅速にすること  
●ポールマークの修復の徹底

4. 平成11年度開催日程について  
前回委員会で保留となっていた9月度開催日を、9月24日（金）に決定し、全委員これを確認した。

## 平成10年度 第9回月例競技委員会議事録

日 時 平成11年1月20日（水）  
16時  
場 所 KGA会議室  
出席者 斎藤委員長  
山崎副委員長  
平山、小池、松井、岡野、桜井各委員  
学生連盟委員

### —討議及び決議事項—

#### 1. 1月度競技報告及び総括

山崎副委員長より下記の報告及び総括がなされた。  
「天候は快晴・無風、1月としては大変良いコンディションの中で競技が行なわれた。男女共に成績はよく、男子トップは68で中島常実、阪田哲男両選手による次回プレーオフ、女子も優勝の大木選手が年間成績トップの南雲選手に並び、年間成績のポイント争いが全体的に好成績につながっているようである。ミーティングでは、最近のソフトスパイク使用者による事故、怪我についての報告があり、特に冬季の使用については充分注意するようにとの指導がなされた。」

エントリー数他は以下のとおり  
開 催 日 平成11年1月18日(月)  
コ ー ス 程ヶ谷カントリー倶楽部

エントリー 126名  
(男子92名、女子34名)  
欠席者数 事前連絡4名  
(男子1名、女子3名)

当日連絡 2名 (男子2名)  
無断欠席 0名

出場者数 120名  
(男子89名、女子31名)

科 賽 者 0名  
ミーティング欠席 1名 (男子)

失 格 者 0名  
棄 権 者 2名 (男子)

次回プレーオフ (男子)

中島常実、阪田哲男

#### 2. 1月月例出場資格者報告の件

男子561名 (+8名) 女子215名 (+2)  
2月月例出場資格者確認の件  
Hdcp処理未着のため、次回委員会にて報告

#### 3. 2月のテーマ

●使用しないティ・グラウンドの歩行を禁止する  
●ポールマークの修復の徹底  
●グリーン上のプレーは特に迅速にすること

## 平成10年度 第10回月例競技委員会議事録

日 時 平成11年2月18日 (木)  
12時30分  
場 所 KGA会議室  
出席者 斎藤委員長  
山崎、川島副委員長  
平山、市川、小池、松井、額賀、岡野、桜井、嶋田各委員  
学生連盟委員

### —討議及び決議事項—

#### 1. 2月度競技報告及び総括

競技日前日 (2月11日)、積雪によりコースがクローズとなり、中止が決定された。中止による参加資格、ペナルティの問題等について審議を行

ない、次記事項を確認した。

●2月度までの出場資格停止処分規定は、3月度に適用する。  
●事前欠席者の扱いは、競技そのものがなくなったため、ペナルティは科さない。

#### 2. 2月月例出場資格者報告の件

男子566名 (+5名) 女子216名 (+1)  
3月月例出場資格者確認の件  
Hdcp処理未着のため、次回委員会にて報告

#### 3. 3月のテーマ

●ポールマークの修復の徹底  
●使用しないティ・グラウンドの歩行を禁止する  
●プレーの進行に留意し、前の組との間隔をあけないこと

## 平成10年度 第11回月例競技委員会議事録

日 時 平成11年3月24日 (水)  
12時30分  
場 所 KGA会議室  
出席者 福田理事長  
斎藤委員長  
山崎、中野各副委員長  
岡野、神戸、小池、小久保、桜井、額賀、平山、星野、松井各委員  
学生連盟委員

### —討議及び決議事項—

開会に先立ち、中野副委員長、神戸、星野両委員が新任されたことが発表され、佐藤事務局長より紹介がなされた。引き続き、福田理事長よりあいさつがなされた。

「昨今のゴルフの乱れから、アマチュアゴルファーとしてどうあるべきかということを念頭に置き、特に月例委員会委員、月例参加選手には範を示してほしい。」

#### 1. 今年度活動方針

斎藤委員長より、今年度活動方針が示され、全委員これを確認した。  
「最近の選手の技術向上は目覚しく、年々レヴェルアップの傾向である。新しい選手の参加が増加の傾向であるが、福田理事長の活動方針に示されているとおり、昨今のゴルフの乱れを正すべく、特に当委員会としては、参加選手に今一度本競技の目的を再認識させる必要がある。委員諸氏のより一層のご協力、ご尽力をお願いしたい。」

#### 2. 3月度競技報告及び総括

山崎副委員長より下記の報告及び総括が述べられた。  
「競技前日の雨でコースコンディションが心配されたが、グリーンの状態は良好であった。気温10℃前後、時折強い風が吹き付ける中、難しいグリーンに、選手は苦戦を強いられたようで、全体的にスコアは伸びなかつた。女子決勝会場のため、女子エントリー数が多かつたが、プレー時間、距離の問題など、更なる検討が必要と思われる。」

エントリー数他は以下のとおり

開 催 日 平成11年3月8日 (月)  
コ ー ス 平川カントリークラブ  
エントリー 134名  
(男子71名、女子63名)  
欠 席 数 事前連絡5名  
(男子2名、女子3名)

当 日 連 絡 1名 (男子)  
無 断 欠 席 0名

出 場 者 数 128名  
(男子68名、女子60名)

科 賽 者 3名  
(女子=交通事故渋滞による遅刻)

ミーティング欠席 0名

失 格 者 1名(女子=自署もれ)  
棄 権 者 0名

次回プレーオフ なし

#### 3. 3月月例出場資格者報告の件

男子569名 (+3名) 女子216名 (+1)  
4月月例出場資格者確認の件  
Hdcp処理未着のため、次回委員会にて報告

#### 4. 4月のテーマ

●ポールマークの修復の徹底  
●使用しないティ・グラウンドの歩行を禁止する  
●プレーの進行に留意し、前の組との間隔をあけないこと  
●ディボットの修復の徹底

#### 5. 平成10年度競技総括

斎藤委員長より、平成10年度の総括が述べられた。  
「平成10年度の月例競技も委員諸氏のご協力で無事終了することができた。本年度は男女共、若手及び新人選手の台頭が目立った。エチケット・マナー面についてはまだ問題を残すが、本年度より実施した、携帯電話の持ち込み発覚者に対するペナルティ処置（3回出場停止）は効果が見られた。参加選手には更なる意識の向上を図る必要がある。」

#### 6. KGA主催競技における「競技の条件」「特別ルール制定」について

本年度より競技委員会内に新設された、競技・規則研修委員会の田村圭司委員長より、詳細な説明がなされた。尚、本委員会から鶴田委員、桜井委員の2名が上記委員に選出された。

## 平成11年度 第1回ジュニア育成委員会議事録

日 時 平成11年3月16日 (火)  
午後2時  
場 所 ダイヤモンドホテル203  
出席者 福田理事長  
前川委員長  
大久保、大鷲、荻原、笠川、川島、田辺、藤園、吉川各副

# 総会・理事会・分科委員会

委員長 池頭、市川、浮ヶ谷、大野、河本、神戸、岸、北本、栗原、桑田、小池、小林、斎藤、佐藤（伊）、佐藤（栄）、嶋田、杉山（文）、杉山（稔）、東福寺、中島、野村、広瀬、発知、前田、増岡、松井、山下、吉岡、米澤各委員  
荒井、岩田、田村、矢島各女子委員

## —討議及び決議事項—

討議に先立ち、福田理事長より新委員長選任の経緯の報告と、今年度の活動方針が示され、全員これを確認した。佐藤事務総長より、全委員の紹介の後、前川新委員長から就任のあいさつがあり、順次問題審議を行った。

### 1. 副委員長、委員選任の件

前川委員長より次記の諸氏が副委員長に指名委嘱され、これを承認した。  
大久保蔵、大鷲俊朗、荻原知昭、川島英雄、田辺嘉一（留任）  
笠川喜久男、藤園賢雄、吉川英明（新任）

### 2. 今年度ジュニア育成委員会活動方針

昨年は、スコア改竄事件が大きく取り上げられ、ジュニアに限らずゴルフ界全体の乱れが問題となった。委員会としてはジュニアゴルファーの正しい育成に力を入れていくことにする。

- フェアプレー精神の徹底
  - ルール、エチケット、マナーの徹底
  - 先生の教育
- また、吉川副委員長に「ジュニアゴルファー憲章」を作成してもらい、「ジュニア・教師・親権者」に配布することとした。

### 3. 編成について

別紙のとおり、3班に分けてスクー

ル、競技を担当することを確認した。各班の統括副委員長を次記のように決定した。

- 笠川、藤園各副委員長
- 田辺、川島、荻原各副委員長
- 大鷲、大久保各副委員長

### 4. 春季ジュニア・ゴルフスクールについて

日程、会場、分担表の確認、また別紙資料をもとにスケジュール、指導内容等について詳細な説明がなされ、全委員これを確認した。

### 5. 夏季ジュニア・ゴルフスクールについて

日程、会場について検討中の所があるが、5月中旬頃までにジュニア委員に実施規定、分担表を配布することを確認した。

### 6. 関東ジュニア選手権予選、決勝について

別紙の日程、会場で開催することを確認した。最近数年間の傾向として、エントリー人数が全体的に減少しているため、全会場18ホールで開催することとなった。また、KGA主催の他競技同様、エントリーの受付及び締切りについては厳守されることを確認した。

### 7. その他

事務局より、「リトルジュニアゴルフ大会」は、会場について検討中であることの報告がなされた。  
また、最近は委員の出席率が低下しており、特に夏休みは過密スケジュールとなることから、班編成にこだわらない全委員協力の必要性が大鷲副委員長より説かれ、全委員これを確認した。

平成11年度  
第1回広報委員会議事録

日 時 平成11年3月18日（木）

午後3時

場 所 KGA会議室

出席者 福田理事長

高橋委員長

宮元副委員長

石川、井上、片山、塙田、舟橋、山田、吉川各委員

## —討議及び決議事項—

討議に先立ち、福田理事長より、今年度活動方針が示され、全員これを確認した。

### 1. 今年度編集方針について

高橋委員長より、次記の方針が示され、全員確認した。  
①各委員会の活動をサポートする。  
②健全なジュニア育成のキャンペーンを行う。

③いわゆる体協問題、特にKGAとの連携（正しいゴルフの振興）についてキャンペーンを展開する。

④「G-sys」の全加盟倶楽部設置を促進する。  
⑤「関東オープン第50回記念」として「オープン50年の歴史」（仮称）を編集発行する。また、KGAニュースも特集号として編集する。

本誌発行以外の広報活動方針は次記のとおり。

①加盟率をアップさせるため、「KGA紹介パンフレット」を作成する。  
②「ゴルフ場利用税の徹底運動」を税対策委員会と共同して行う。  
③競技日程表、アンダーハンディキャップ競技等のポスターを作成して、参加者を増加させる。  
また、昨年度にマスコミ（特に地方紙）のバイブルが出来ているので、取材依頼を積極的に呼びかける。

### 2. 副委員長、委員選任の件

2月23日に開催された委員長会議の

# 総会・理事会・分科委員会

決議において、委員長より副委員長、委員は、全員再任された旨の報告がなされ、全員これを確認した。

### 3. KGAニュースNo.65総括

事務局より連載記事「ゴルファーのためのマナー基礎講座」についての説明がなされこれを承認した。  
競技成績表に、予選参加者数も掲載することとした。

### 4. KGAニュースNo.66企画案

別紙の事務局企画案が承認された。  
春季ジュニア・ゴルフスクールは、前川新委員長にインタビューをし、ジュニア育成委員会の活動方針を掲載することとした。

### 5. 競技取材担当の件

前期の担当を決め、各主催競技等の取材、編集にあたることを確認した。

### 6. その他

国体の予選会を取材することとした。7月1、2日の東京大会は、塙田委員。

8月12日の埼玉霞ヶ関ブロック大会は、吉川委員が担当することとなった。

## 平成11年度 第1回体協部会体協委員会議事録

日 時 平成11年3月17日（水）

正午

場 所 KGA会議室

出席者 尾閔委員長

斎藤副委員長

平林、進藤、根本、江本、小

松、若尾各委員

代理出席 江原氏（山口委員

代理）

## —討議及び決議事項—

討議に先立ち、尾閔委員長より、新委員長就任の挨拶がなされ、各委員より自己紹介がなされた。

### 1. 今年度活動方針について

尾閔委員長より、次記活動方針が示され、全委員これを確認した。  
「JGAを中心にし、いかにゴルファーを掘り起こし、ゴルフ人口を増やすか、ゴルフ振興策を図ることを活動の基本としたい。この共通の目的に向けて、委員諸氏のご尽力、ご協力をいただきたい。」

### 2. 副委員長選任について

委員長より、斎藤（新潟）、森川（東京）委員の両氏が指名委嘱され、全委員これを承認した。

### 3. JGA体協委員会の名称変更について

標記議題につき、尾閔委員長よりJGA体協委員会が国体委員会に名称を変更した経緯につき、JGA配布資料を基に説明がなされ、全委員これを確認した。

### 5. 都県別競技委員選任および研修会について

尾閔委員長より以下の提案がなされ、全委員これを承認した。

「KGA今年度競技委員選任にあたり、各都県アマチュア団体より、競技委員1名を選任、登録いただくこととした。その目的は、各都県統一された競技実施を行なう際に、KGA競技委員と協力して事に当っていただくためである。そのため、競技・規則研修委員会を新たに設置し、都県別に研修会を開催する。」

### 6. 各都県のJGAハンディキャップ取得について

尾閔委員長より、以下の説明がなされ、全委員これを確認した。  
「JGAでは、体協会へのJGAハンディキャップ発給を承認した。」

これをうけ、KGAでは「G-sys（JGAハンディキャップ査定専用パソコン）の貸与を考えており、いつでも実施できる体制にある。しかし、都県によっては受け入れ体制が整っていない。至急に検討して欲しい。」

次回委員会 5月25日(火)正午 KGA会議室

## 月例競技成績表

〔平成10年度12月月例〕 12月8日(火) 茨城ゴルフ倶楽部・東コース

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	松本 寛美	富士宮	36	36	72
2	中島 篤志	東松苑	34	39	73
2	白井 敏夫	総武	37	36	73
2	新村シオ子	千葉	36	37	73
2	市川 賢	東京国際	36	37	73
2	雄崎 正一	秦野	36	37	73

コースレート73.3

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	関根奈穂美	セントラル	32	38	70
2	矢島智都子	富士	40	35	75
3	旗田 俊江	龍ヶ崎	38	39	77
3	南雲 真理	岡部チサン	37	40	77
3	加藤 勝栄	相模原	39	38	77

コースレート70.9

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	中島 常実	東松苑	38	30	68
1	阪田 哲男	袖ヶ浦	34	34	68
3	岩井 正一	習志野	36	36	72
3	長野 英樹	明治大学	38	34	72
5	石井 保行	東名厚木	36	37	73

コースレート71.8

※男子1位タイの中島、阪田の両氏は、次回月例にてブレーオフを行ない、優勝者を決定する。

〔平成11年度3月月例〕 3月8日(月) 平川カントリークラブ

順位	氏名	クラブ名	OUT	IN	合計
1	加藤 一彦	千葉	35	39	74
2	岩下 良雄	川越	39	36	75
3	中島 常実	東松苑	40	36	76
3	徳永 雅洋	サ・レイクス	38	38	76
3	大山 四郎	新千葉	38	38	76
3	中島 広行	伊豆にらやま	37	39	76

コースレート72.2

※1月度のブレーオフは、中島常実選手の優勝に決定しました。

## お知らせ

関東ゴルフ連盟「加盟倶楽部便覧」の変更事項は次のとおりです。訂正加筆をお願い申し上げます。(3月末日現在)

理事長

●高麗川カントリークラブ  
(新)吉野 重彦 (旧)神尾 昌一

住 所 千葉市中央区中央4-8-13 千葉復興(株)内  
FAX 043-227-0722

●長岡カントリー倶楽部

(新)田村 崑 (旧)渡邊 健三

支那人

●新潟ゴルフ倶楽部

(新)遠藤 栄松 (旧)齊木 利雄

●新津カントリークラブ  
(新)明道 宇弘 (旧)横山 嘉一

●千曲高原カントリークラブ

(訂正)飯島 保利

●那須城ゴルフ倶楽部

選任中 (旧)水野 要

●水戸グリーンカントリークラブ

(新)野内 宏一 (旧)海老原龟久寿

●サンライスカントリークラブ FAX 03-3563-1326

●那須城ゴルフ倶楽部 閉鎖

HDCP

G-sysに変更した倶楽部

(新)小林 建夫 (旧)黒須 忠

●浦和ゴルフ倶楽部

(新)高橋 茂 (旧)久保田 博

俱楽部名

●(新)富士箱根カントリークラブ

(旧)南箱根ゴルフ倶楽部

東京事務所

●サンライスカントリークラブ FAX 03-3563-1326

●那須城ゴルフ倶楽部 閉鎖

休場日

●那須城ゴルフ倶楽部→月

体協会員

●千葉県アマチュアゴルフ協会

(訂正)

会長 白井日出男

理事長 野本 俊夫

●千葉県アマチュアゴルフ協会

(訂正)

会長 白井日出男

理事長 野本 俊夫

●に変更した倶楽部

・白水ゴルフ倶楽部

平成11年5月1日発行 KGAニュース No.66  
発行所／関東ゴルフ連盟 東京都千代田区麹町2-12 CTS麹町ビル8F TEL.(03) 5275-0391  
発行人／福田 彰 編集／広報委員会